

令和7年度 第1回環境審議会 会議録

○開催日時：令和7（2025）年9月3日（水） 午後2時～午後3時30分

○開催場所：那須塩原市役所 本庁舎 303会議室

○出席者：

【委員】15名中11名（うちオンライン1名）

【市】瀧口副市長、環境戦略部長、ネイチャーポジティブ課（課長、課長補佐、環境企画係長、同係主査、主事、自然共生係長、環境衛生係長）、カーボンニュートラル課（課長、課長補佐、再エネ推進係長）、サーキュラーエコノミー課（資源循環係長、産業廃棄物係長）

【受託業者】平成理研株式会社（2名）

1 開会

2 会長挨拶

3 副市長挨拶

4 自己紹介

5 議題

【事務局】

環境審議会規則第5条第2項の規定により、委員の半数以上の出席が必要となる。本日は半数以上の出席（オンラインを含む）があるため、本会成立の報告。

また、会議録作成のため録音させていただく。

環境審議会規則第5条第1項の規定により議長は会長が務めることとなっているため、議事進行を会長に依頼する。

(1) 第2期那須塩原市環境基本計画の改定版（素案）について

【会長】

議題(1)第2期那須塩原市環境基本計画の改定版（素案）について、事務局からの説明を求める。

【事務局】

第2期環境基本計画の改定版（素案）について、概要を説明する。なお、一部項目（表紙、市長メッセージ、資料編）は後日差し込む予定である。

本素案は、現行の第2期環境基本計画に、市の「2050 Sustainable Vision 那須塩原」で掲げるネイチャーポジティブ・カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの3本柱を核として環境施策に取り組んでいくという視点を盛り込んだもの。全体として、市の環境施策のビジョンとして大きな方向性を示すものとなるよう変更を加えている。

なお、データでの配布という形を活かし、素案中アンダーラインのある部分には関連する市ホームページのリンクを貼っている。

本計画は、那須塩原市総合計画を環境面から推進するものと位置付けている。計画の構成は現行計画に同じ。対象とする環境の範囲は、那須塩原市環境基本条例第8条第1項に掲げる5つの基本方針と整合を図り、「自然環境の保全」、「気候変動影響への保全」、「循環型社会の構築」、「生活環境の保全」及び「快適環境の保全」とする。

改定後5年間のモニタリング期間を確保するため計画期間を令和12年まで延長することとしているが、市の総合計画は令和9年度までであるため、次期総合計画との整合性を図る必要性が出てきた場合には、適宜見直しを行うこととしたい。

9ページから20ページまでには、前述した5つの環境項目ごとに市の現状と課題を記載した。なお、現行の計画では実績値のみの掲載だったが、本素案においては前回審議会で御意見いただいたとおり一部項目について将来予測の推計値も掲載している。

25ページから41ページまでには、環境項目ごとに関連する個別計画、望ましい環境像、そして基本施策と主な事業を記載した。

また、各項目の最終ページに環境指標を記載した。環境指標においては、現行計画に掲げる指標のうち必要なもののみを残すとともに、新たに指標とすべきものを追加した。

本計画の推進と進行管理においては、環境審議会にて御意見等をいただき、市民や事業者、各種団体等と連携しながら、ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンスやゼロカーボンコンソーシアムといった企業連携の枠組みと連携しつつ、一丸となって取り組んでまいりたい。

第3部 環境配慮行動指針には、主体ごとに配慮すべき行動指針を具体的に示した。なお、スペースの都合上厳選したものを掲載している。

第4部 地域別環境配慮指針では、那須塩原市総合計画に掲げる土地利用構造に準じて市を4つのエリアに区分し、それぞれのエリアで取組むべき・配慮すべき行動指針を示した。こちらは現行計画に一部加除を行ったのみで、大きな変更はない。

資料編は今後差し込みを予定している。

【委員からの質疑等】

- Q. 環境基本計画の位置付けについて、本計画は条例に基づくものであるから、条例が図の最上位となるべきではないか。また、「2050 Sustainable Vision 那須塩原」に基づいて本計画を改定するのであれば、こちらも計画より上位に位置付けられるものではないか。
- A. 御意見のとおり。図の書き方や表現の工夫を検討する。
- Q. 指標が従前よりもかなりコンパクトにまとめられている。どのように効果検証を行っていくのか。
- A. 数値目標の達成のみに固執せず、目的に向けて施策が動いているか検証を行っていきたいと考えている。検証や評価の方法については、今後の審議会で御意見をいただければと思う。
- Q. 本計画自体が市の行動指針ともいえるため、「市の行動指針」のページを作成する必要はないのではないか。
- A. 現行計画と同じ構成としたものであるが、御意見のとおり。ページ構成については削除も含め検討させていただく。
- Q. 指標の単位について、他自治体などで見るような「一人当たり」単位ではなく総量としているのは何故か。
- A. 担当課との協議の上、各個別計画で掲げている指標や目標値と整合性を図ったためである。
- Q. 計画の改定に当たっては、これまでの計画実績を総括したうえで、それに基づく新規要素や継続要素を盛り込んでいくことが必要である。現状の実績を見ると住民の参加に関する目標値が未達成であるため、今後計画を実行していくにあたっては、より具体的な施策を入れ込んでいく必要があると思う。
- A. 現行計画の指標のうち、各個別計画との整合性を図った上で引き続き追っていく必要があるものを指標として設定した。施策については貴重な御意見として承る。
- Q. 市民アンケートにおける「ネイチャーポジティブ・サーキュラーエコノミー・カーボンニュートラル」の知名度を見ると、半分以上の方が「知らない」「意味は知らない」と回答している。これについての市の考えと対策は。
- A. まだ市民権を得られていない状況だが、名称の認知だけでなく、その背景や趣旨なども含めて知っていただけるよう引き続き普及啓発に努めていく。
- Q. 効果検証の方法について、定量評価のみでは実態が見えづらくなっている。もし審議会においてモニタリングを行っていく意向なのであれば、定性的評価を行うための情報（年度ごとの事業計画、実施内容、実績等）を提供してはいかがか。
- A. 定量的ではないと評価しづらいのは仰るとおり。今後、定性的な評価もできるような見直しを図っていききたい。

Q. 計画上、各指標の達成のために市民、企業、市といった主体がどのように関わっていくのか明記されているか。環境指標と実施主体の役割の関連付けはどのようになっているか。また、環境指標として挙げられている森林面積の目標は「維持」となっているが、実際には基準値よりも低い数値が目標として設定されているのはなぜか。指標として設定する際、天然林や人工林等、森林の種類を考慮されているか。

A. 想定以外の主体が出てくることがや幅広い主体との連携を考慮し、指標ごとに想定される主体は明記せず、例示という形にとどめている。森林面積については、林務担当課と協議の上、令和9年度までの維持目標（38,000ha）を引き続き令和12年までのベンチマークとしている。森林の種類については林務担当課に確認する。

Q. 一般市民が見ることを考えると、「アライアンス」、「ゼロカーボン」等のカタカナ語は非常に分かりにくいので配慮してほしい。また、数値目標等についても、この1ページだけでその意味や位置付けが分かるように記載する等、分かりやすい記載を心掛けてほしい。

A. 指摘のあったカタカナ語については既に決定している名称であるため変更できないが、それがどういうものかという説明を記載してある。また、データ上、リンクを貼って詳細を確認できるようにしてある。スペースとの兼ね合いも考慮しながら、注釈等を追記するなど、分かりやすい記載に改めたい。

Q. 本計画は、資料のスライド1枚が1ページになるようなイメージか。

A. そのとおり。詳細版のほか、概要版も作成予定である。

Q. エリア区分のページにおいて、塩原温泉と板室温泉が拠点として色分けされているが、凡例に「拠点」の区分がない。

A. 修正する。

(2) 第2期那須塩原市環境基本計画（現行）のKPI達成状況報告について（報告）

(3) 那須塩原市の環境保全の取組について（報告）

(4) 那須塩原市生物多様性地域戦略のKPI達成状況報告について（報告）

【会長】

議題(2)～(4)について、事務局から説明願う。なお議題(2)～(4)については実績報告のため、まとめて説明する。

【事務局】

個別の説明は省略し、変更点のみ説明する。

(2)資料4及び(3)資料5については、昨年度以前に委員から傾向の変化が読み取りづらいとの意見があったため、過去の傾向が分かるよう複数年度の数値を掲載した。

(4)資料6は令和6年5月に策定した那須塩原市生物多様性地域戦略の達成状況の一覧表。本指標についても令和12年度の目標達成を目指し取り組んでいく。

【委員からの質疑】

- Q. 資料4を見ると、やはり市民への周知や参加の部分が弱いように思える。環境問題は課題をいかに「我が事」として認識できるかが一番のポイント。各指標における主体ごとの数値が見えるようにすべき。また、目標値に対しての進捗率が可視化できるような工夫があれば、市民等の参加意欲に繋がるのではないか。
- A. 検討する。
- Q. 資料4、市の事業によって排出される温室効果ガス排出量が、令和4年あたりで急激に増加しているが、これは何故か。
- Q. 同様のことがBODの達成状況にも言える。大きな数値変動がある場合には、理由を提示して欲しい。
- A. 承知した。なお、温室効果ガス排出量の極端な変化は、法改正により新たにクリーンセンターが市の環境マネジメントシステムの対象施設となったためである。BODの悪化と回復についての原因特定は現時点では困難。
- Q. 騒音に関して、路面騒音や新幹線騒音において基準未達が続いているようだが、苦情等はないのか。また、改善策や今後の見込みはいかがか。
- A. 国道沿いで交通量が多い地点は例年達成できていない。現状苦情はないが、今後更に交通量が増え、苦情が出るようなことがあれば、国と協議しながら対応してまいりたい。新幹線騒音についても公害対策連絡協議会を通じて毎年JR東日本へ要望を提出しているが、対応するかどうかはJR東日本次第。市としては引き続き要望を継続する。
- Q. 環境の数値は傾向を見ることが重要である。先ほどの温暖化ガス排出量のように、大きな事業所が追加になって数値が大きく跳ねることもあるし、将来的に人口が減少した場合、当然ごみ排出量などの総量も減少するはず。総量管理のままでは実態の把握が難しい。数値の集計において、単位当たりでの見直し等も必要となってくるのではないか。
- A. 貴重な意見として承る。

(5) その他

【事務局】

事務局より、ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンス（NPNA）及び那須塩原サステナブルセンターの設置について報告する。

【委員からの意見】

- Q. ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンス（NPNA）に加入することで各ステークホルダー（企業・団体・個人）にどのようなメリットがあるのか、具体的に示す資料があるとよい。
- A. 貴重な意見として承った。なお、企業等には希望があれば個別に説明に伺うことも行っており、その際の説明資料は別途用意している。今後参加者が増えていけば、活動例の提示や参加者同士のマッチングにも対応していきたい。
- Q. ネイチャーポジティブ那須野が原アライアンス（NPNA）のチラシに掲載されているイメージ図に、有害鳥獣や特定外来種などの問題動物ばかりがピックアップされている。生物多様性保全の推進という趣旨にそぐわない。市民の保全活動への参加を促していくのであれば、保全すべき貴重な動植物を採用すべきではないか。
- A. チラシに載っている図は、本市が地域として抱える課題と特性を掲載したものである。図の修正は難しいが、貴重な意見として承った。